



たぬきときつね



おかえし

村山 桂子 さく 織茂 恭子 え 福音館書店 Eーオ

たぬきのいえのとなりへ、きつねがひっこしてきました。きつねのおくさんは、たぬきのおくさんのところへ、かごいっぱいのおいごをもってあいさつにきました。おいしそうないちごをうけたたぬきのおくさんは、ほりたてのたけのこをおかえしにもっていきます。

キツネのボックス

サラ・ペニーパッカー 作 佐藤 見果夢 訳 評論社 933ーペ

キツネのボックスは赤ちゃんの時、ピーターに拾われます。それ以来、ボックスは大好きなピーターを守る責任を強く感じるようになりました。ピーターもボックスと自分がひとつになったような不思議な感覚を経験します。しかし、ピーターは戦争で疎開することになり、ボックスを野生にもどすため森へ置いて行かなければならなくなりました。

きつねどん

洞野 志保 再話・絵 ビリケン出版 Eード

あるひのこと、ずるがしこいきつねどんは、ぶたのあぶりにくがたべたくてたまらなくなりました。そこできつねどんは、からっぽのふくろをふくらませてでかけました。ゆうごはんのころ、きつねどんはあかぎつねのいえのもんをたたいて、とめてほしいとたのみます。きつねどんは、ごしゅじんに「このふくろのなかには、ふとったにわとりがはいってしましてね」といいました。

こぎつねコンチ

中川 李枝子 さく のら書店 913ーナ

こぎつねのコンチが、はらっぱのちかくのいえからそとにでると、あたまにまっかな木のはがおちてきました。コンチはおちばをあつめようと、おかあさんにたのんで大きなたけぼうきをもたせてもらいました。コンチがぼうきにまたがってひきずると、くりのいががひっかかって、中からくりが三つでてきました。

たぬきがいっぱい

さとう わきこ 作・絵 フレーベル館 Eーサ

たいこをもってぼくがのはらにいくとたぬきにであつた。たぬきは、ぼくそっくりにばけてついてきた。つぎにであつたたぬきもぼくそっくりにばけてついてくる。みんなでドンドコたいこをたたいてもりへいくと、もりのなかにもたぬきがいっぱいいた。

タヌキ

竹田津 実 文・写真 アリス館 489ータ

ほっかいどう ひがし ち がつ き せつ す あな い ぐち うご
北海道の東の地、3月のおだやかな季節に、キツネの巣穴の入り口で、なにかが動きました。
あらわれたのはエゾタヌキです。す あな な がねんつか
巣穴を長年使っているキツネは、お だ
追い出したりするようすはありません。タヌキはや こうせい どうぶつ
夜行性の動物です。おな か
同じイヌ科のキツネと住む場所や食べ物を 争 ったりしない
ように、うまくす
す 住みわけをしています。

うどんやのたあちゃん

鍋田 敬子 さく 福音館書店 Eーナ

たあちゃんのうちは、うどんやをしています。たあちゃんがようちえんからかえると「おなかすいたやろ」と、おかあさんがきつねうどんをおいてくれました。たあちゃんがたべようとすると、とつぜんおとこのこがあらわれて「たあちゃんちのうどん、たべてみたいんや」といいます。